

第 25 回縮小社会研究会の報告

時：2014年11月14日13時より同15日の12時まで

所：関西セミナーハウス（修学院きらら山荘）<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

参加者：41名（宿泊者29名）

晴天にめぐまれた紅葉の自然の中での研究会でした。

分科会報告、グループ討論、懇親会、講演会、すべて活発で中身の濃いものでした。茶室でのお点前も、日常を離れ、リフレッシュできました。講演資料は、HPに掲載。



グループ討論風景

第 25 回縮小社会研究会の案内

比叡山の麓の紅葉の山荘で、お茶を楽しみながら、一泊でゆっくり、とことん語り合いたいと思います。

世界は急速に動いています。これまでの成長は、全体として成長し、底辺も豊かになっていました。しかし、最近では全体としての成長は止まり、自由競争で貧富の差が大きくなっています。アメリカでは、99%の貧者という運動が起こり、日本でも、非正規雇用、低所得者、生活保護が増加しています。これは、地球(エネルギー資源、環境)が有限で、これまでのような無限の成長が不可能になったからです。この状態で、成長の夢を追い続けると、破滅は早くなります。孫子の代までと言う言葉がありますが、孫の代まで持たないでしょう。早く縮小に切り替えないと、破滅を避けることはできません。縮小というと、その生活はどのようになるのか、どのようにして縮小するのかと問われます。今回の研究会で、皆で知恵を出し合い、その姿を求めたいと思います。

時：2014年11月14日13時より同15日の12時まで

所：関西セミナーハウス（修学院きらら山荘）<http://www.kansai-seminarhouse.com/>



大会議室



茶室「清心庵」

【14日】

13:00 受付開始

13:15 これまでの分科会などでの議論の報告（経済、農業、工業、エネルギー、生活、哲学、縮小社会像、など）

15:00 グループ討論（途中でお点前）

17:00 グループ討論報告と全体での議論

18:30 夕食（レストラン）

19:00 懇親会、自由討論（大会議室でビールとおつまみ）

【15日】

8:00 朝食

9:00 講演「今日のフードシステムおよび適正技術としての食と農」
（平賀緑、京都大学大学院 経済学研究科 博士後期課程）

近代以降、農と食は大規模化・近代化・工業化され、収量は増加したものの、環境ならびに人間の健康と社会を脅かすものになってしまった。農と食が世界最大の地球温暖化ガス排出源となり、食生活由来の非感染性疾患が世界最大の死因となった今、国際機関や専門家たちは「小さな農」に人類の活路を見出している。

10:00 講演「ガンディー思想と縮小社会論：コンヴィヴィアリティを軸として」
（石井一也、香川大学）

ガンディーの経済思想を、イヴァン・イリイチの「コンヴィヴィアリティ」の概念に照らして考察する。その際、ガンディーの近代文明批判や「脱近代」のための「身の丈の経済」の構想などを概観し、それにたいするラビンドラナート・タゴールやアマルティア・K. センの批判をみる。こうした批判を乗り越えて、21世紀におけるガンディー思想の意義を縮小社会論の文脈で考えることが本報告の目的である。

11:30 全体討論

12:00 昼食、その後解散



費用：参加費：1000円

宿泊する人：1泊3食と懇親会（12,000円）。

宿泊しない人：夕食（2100円）、懇親会（1000円）、朝食（1000円）、昼食（1300円）

茶室「清心庵」でのお点前（1000円、裏千家の先生による1グループ6,7名で30分間の本格的なものです。参加希望者が多い場合は、15日の午後にも開催します）

参加登録：下記の参加申込書を、matsuhisa@shukusho.org まで送信願います。

〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前 21 石川ビル 305

e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>

第 25 回縮小社会研究会参加申込書

氏名	
宿泊	
14 日午後の研究会	
14 日の夕食	
14 日の懇親会	
15 日の朝食	
15 日の講演	
15 日の昼食	
お点前	

送信先 : matsuhisa@shukusho.org

出席の場合は 1、欠席の場合は 0 を記入してください。